

第 22 回中井町地域公共交通会議 議事録

日時：平成 29 年 7 月 27 日（木）午前 10 時 00 分～

場所：中井町役場 3 階 3 A 会議室

【会議次第】

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 協議事項
 - (1) 中井町生活交通確保維持改善計画（案）（平成 30 年度版）
（地域内フィーダー系統確保維持事業（国庫補助申請））について **承認事項**（資料 1）
 - (2) 今後の運行システムの検討について **一部承認事項**（資料 2-1、2-2、2-3）
- 4 その他
- 5 閉会

【協議事項の議事】

- 3 協議事項
 - (1) 中井町生活交通確保維持改善計画（案）（平成 30 年度版）
（地域内フィーダー系統確保維持事業（国庫補助申請））について **承認事項**
（事務局より（資料 1）中井町生活交通確保維持改善計画（案）について説明）

会 長：質問、発言いかがか。

会 長：質問等なければ、原案通りに申請するという事で承認いただけるか。

－意見なし－

<承認>

- (2) 今後の運行システムの検討について **一部承認事項**
（事務局より（資料 2-1）今後の運行システムの検討について、（資料 2-2）オンデマンドバスの利用分析、（資料 2-3）新たな運行システムの検討案の検証について説明）

会 長：資料 2-1、4 ページの運行体制の方針について、オンデマンドバスを延長するということだが、現状の課題もあるので、(2) 運行内容の見直しでは、予約をとりやすく、より支援が必要な人を絞っていくと、利用者は結果的に減るが、コストがものすごく減るわけではないので、一人当たりコストは若干上がるものの、本当に必要な人に、よりサービスが提供される。また、今まで、朝の通勤時間帯だけでなく、昼間もかなりあった予約不調がほぼ解消し、おそらく前後 30 分以内であれば、ほぼ希望を満たせるくらいにはなるのか、というのが試算の読み方かと思っている。皆様いかがか。

委員：資料2-3の検証の評価について、定量的な観点から見たものか、定性的な観点から見たものか、総合して見たものか。

事務局：総合的に判断をさせていただいている。

委員：4ページ(2)運行内容見直しについて、現在のオンデマンドバスの運行体制は延長し、町内完結型の運行を導入していきたいということだが、町外に対する利用が46%あり、これらの人々のニーズを満たす方法として、どのような考えを持っているか。

事務局：町外に乗降ポイントを設けたのは、運行開始当初、中井町に大きな商業施設がなかったことから、買い物施設のある近隣市町村への足として考えた経緯がある。医療機関についても、井ノ口地区には運行開始当初、まだ医療施設がなかったため、隣接市の医療施設への足としたのが設けた理由である。しかし、実際は町外への足として、例えば通勤で中井町から西友へ行き、そこから二宮駅まで利用をしている人もおり、逆に二宮町や秦野市から中井町への通勤として利用している人もいる。中井町から町外に移動する人については、基本的に町内バス停から、例えば、二宮駅、秦野駅まで行っていただく方法で対応を考えたいと思っている。確かに、値段的にも高くなる可能性はあるが、町外への利用が多く時間を占用し、そのような予約の仕方ですべてのように利用されている。その人が悪いという訳ではないが、もっと多くの人に利用してもらいたく、まずは、町外への移動を希望する人には、町内の路線バスまで来てもらい、そこから町外へ行っていただくような利用をしてもらいたい。

委員：接続拠点として、具体的にどういう地点を考えているか。

事務局：例えば、中村地区であれば、比奈窪バス停は、秦野駅行きのバスもあり、二宮駅行きのバスもある。そういったバス停まで来てもらい、そこから両駅に行っていただきたい。最寄りのバス停がある方は、路線バスを使っていただきたい。もちろん、中村地区の人が井ノ口地区の路線バスの本数の多い場所まで来てもらい、秦野駅、二宮駅に行っていただくこともできると思う。

委員：オンデマンドバスと路線バスの接続の問題となる。スムーズな接続が必要になってくると思う。前回会議で、比奈窪のバスターミナルが、もしかすると移るかもしれないという話もあったが、ある程度保障されているのか。

事務局：現在、地権者とバス事業者で協議している。本年末までが契約期間で、今のところ、地権者とバス事業者との話し合いで、本年以降についても、ひとまず1年の契約延長という方向で進んでいる。それ以降についてはまだ具体的な話はない。

委員：そこは、ある程度保障されているという前提で、このような話を進めないといけな。

事務局：もちろん路線バスはバス事業者が運行しているが、町としては路線バス自体も重要な足となるので、その点については、バス事業者と一緒に連絡をとりながら対応させていただいている。基本的には残してもらいたいと考えている。

委員：懸念していることは、神奈中も営業団体なので、赤字路線はあまり走らせたくないというのは当然だが、家族を迎えに行くと、夕方でも比奈窪バス停まで乗ってくる通勤者はほとんどいない。だいたい隧道口バス停あたりで皆降りてしまう。そういう状況で、その先の中井町までの路線が、果たしていつまで保障されているのかと思ってしまう。場

合によっては、隧道口あたりで折り返してしまうような時代が来るのではないかと勝手に想像してしまうが、どうなるか。いつまでも中井町を走ってほしい。

委員：東海道線と小田急線をつなぐため、秦野と二宮とその間に中井町があり、それなりのバスが通れるところには、鉄道のフィーダーとして商売をさせてもらっているが、これだけ自家用車が増えてバスの利用者が減ると、商売として、横浜方面や都市部に比べると一車当たりの収入はかなり低く、本音としては厳しい。5年前にオンデマンドバスを始めた時も、幹線の路線バスも残しながらの運行であったが、やはり山坂がありエリアが広い中井町で、何とか交通空白地域も含めた町民の足をどうするかというところから、この会議自体が始まっている。今は、商売云々というよりも本当にバス全体の乗務員がおらず、働き方改革も含めて運転手の残業も制限がかかっているの、朝から晩までバスを走らせるというのはかなり不可能な状況にある。連携してオンデマンドバスと路線バスがすぐに乗り継げれば、まだ利便性が保てると思うが、そこで20分、30分も待たせてしまうとなると、このシステムも厳しいのかという部分もある。本当に厳しい状況だが、そのあたりも含め、色々議論するのもこの会議かと思う。今のところは歯を食いしばっても、それなりに上下線を維持するという形で進めている。ただ、あまりにも無駄な路線や、重なって走ってしまう路線等は整理をしたいのと、平日は通勤通学利用があるが、土日は少なかったりする。また、だんだん話が大きくなってしまいが、町外からの観光で収入の柱をひとつ作れないか、そういったものも含めた中で考えていきたい。

委員：前回の会議でも出ていたが、比奈窪から二宮駅に出るまでの経路について、下小竹から旧道に入るが、もう少し時間短縮できないのかと思う。新道をスムーズに行けば、5分位は短くならないか。結構大きなインパクトになると思う。

委員：秦野市、二宮町と1市2町の打合せも行っているが、二宮線を日赤経由にすることや、急行便や速達性、早い新道に振り替える案など様々考えている。ただ、旧道のバス停の利用の関係がある。両方走らせる余裕がないので、ある程度、旧道から新道の方に出ただけでいいとか、そのあたりの調整さえつけばということである。利用者のニーズはやはり速達性や定時性ということだと思うので、いろいろ見ながらやっていきたいと思う。

委員：改善を期待したい。

会長：今回の検討案は、現状の幹線バスがほぼ維持される前提のもとで、組合せとして事務局は案①にしたいということである。特に記載はないが、大事な前提で、もし崩れそうな事態となると、まったく別の評価をしなければいけない。しかし、車両がまだ何年かもつので、当面は続けるという中では、よほどのことがない限りいきなり本数が半分以下になるというのはないと委員が話されたので、その前提のもと、今日の提示とご理解いただくといいかと思う。

会長：町内と言いつつも、路線バスがないような地域のみ特化することは当面はせず、路線バスがあるところも引き続き運行範囲にする。町外は、ニーズが高いことは十分承知はしているが、通勤等の利用が多く長時間占有することから、予約の不調をなくすためにもバスの乗継に移行してもらいたい。それで、より必要な方に、より予約を取りやすく使

ってもらふような形で当面続けたいというのが、事務局案である。コストの話は出されていないが、案が決まってからバス事業者と話し合いということかと思う。コストが3割～半分下がるというのは恐らく無いと思う。現状のコストからあまり変わらない範囲で、お客さんは若干減り、予約は取りやすくなるという形だろう。

会 長：当面というのは、どれくらいの想定か。

事務局：今のオンデマンドバスも丸5年を迎える。来年再来年に使えなくなるというような話は事業者と相談の中では、無いだろうと聞いている。県内の別の町でも10年くらい使っているところもあるとバス事業者から聞いている。その間に、バスの更新も迎えないといけない。バスの更新に合わせ、町の次の運行システムについて、今のままのバスになるのか、または、タクシー等に変えていくかなど、いろいろなことも含めながら、ある程度5年以内に方向性を検討していく必要があると思っている。

会 長：最大5年くらいだろう。車両10年以上は厳しいか。

委 員：普通の路線バスであれば10年くらいは余裕だが、小型のワゴンは他の市町村でもやっているが、10年使えるかどうかは難しい。エンジンやブレーキが大型と違うので、寿命は大型に比べると短い。

会 長：5年後には明らかに車両の更新をしなければならない。5年後とはいえ3年くらいで所々に不具合が出る可能性も考えると、当面続けるのは5年だが、2～3年経ったところで、更新のタイミングでどうするかということは考えないといけないという提案でご理解いただき、発言などをいただきたい。

会 長：具体の運行案の説明もいただいたが、こちらも含めて意見いかがか。

委 員：当初の計画で、買い物、病院等も含めて町外ということは、話はあったが、路線バスとの乗継についてはあまり議論されていなかった。ゆくゆくは、ある程度オンデマンドバスと路線バスがうまく乗り継ぎできる拠点を考えたいという話の中で進めてきた。資料2-1の3ページのように縦線については路線バスでカバーできているので、中村と井ノ口の両方、せめて二カ所には、路線バスとの乗り継ぎ拠点のようなものが欲しい。すぐできるものではないが、路線バスをあと何分待てば秦野行き、二宮行きが来るというものや、雨風をしのげる場所、ショッピングモールや役場等であれば、ある程度の時間も潰せて、町民も集まっていたら、路線バスもそんなに待たないで秦野や二宮に運べるようなものも今回の新しい計画の中で、入れたほうがいいのではないか。路線バスの運行についても、可能などころは改善していきたいと思う。

委 員：今の話に賛成する。路線バスとの乗り継ぎについて、岡山では、デパートの下にバスが入って行って、そこで乗り換えをしているのを見たことがある。そういった仕組みで、待ち時間でデパート等へ行くという方法もひとつの手ではないか。すると人が集まるかもしれない。乗り換えれば秦野駅、二宮駅へ行けるというようにはなっていない、待ち時間に雨風をしのげるようなものがないし、もし事業者がよければ、駐車場に入り、乗り換えるという手もあるのではないかと思う。

委 員：現在の車両の耐用年数が過ぎ、車両を入れ替えるという話で、他の案もある程度勘案しながら、今後の運用計画を考えていくということになっているが、その場合は車両の種

類も変わる可能性があるということか。新たにワゴン車とも限らなくなる。

事務局：車両の形も含めて検討させていただきたい。現行のシステムと、仮に変えるのであれば、どちらが今の中井町に合っているかを比較し、会議の中で説明させていただきながら、方向性を決めていきたい。

委員：今後の運行について一番気になるのは、乗り継ぎというところ。スムーズな乗り継ぎ、時間的にも乗車人数も、うまくいってくれたらいいと個人的には思っている。

会長：現状、子供の利用はかなり多いわけだが、子供の利用について、予約方法や使い方は現行と同じような形で行くのか。

事務局：はい。それらも含め現行のシステムを継続ということで判断をさせていただいている。

会長：他はいかがか。

委員：検討案①に賛成する。

会長：ご指摘をいろいろいただいたが、待たなしという話でもある。事務局の提案は、現状の形で範囲を狭めるという事になる。これでご審議いただくのだが、改めてそれに対して特に検討して欲しいというものや、条件は付けたい等あれば発言いただきたい。

副会長：5年間検証した中で、交通弱者や目的など話をしてきたが、実際運行となるとやはり課題、特に長距離運行の課題が見えてきた。また、公共交通の基幹となる路線バスとの連携にも若干課題があったと思っており、改めて連携を図るということだと思う。これまでの実績をリセットして全てを新しくすることはできないので、継続しながら長所をとりつつ短所はどういう改善をするのかという見方で、改めて実証運行を進めていきたい、という町の考え方である。さらにバスの継続だけでいいのかという点も、運行しながら、費用面等様々な部分を見ていかないといけない。

委員：比奈窪のバスターミナルを作っても、椅子しかないのでは人は集まらない。多少、商店や本屋等ができれば、そこで待つ時間が楽しくなると思う。

委員：5年経過して、その間のデータ等を深掘りし、今回このような方向付けがされたと理解させてもらった。特に発足当時は、比較的、町外や駅までという声も確かに多く、そうした経過も踏まえて本日に至っている。そして、本当に必要な人に利用してもらうという方向で、見直そうと方向付けがされていた。さらに先に進むとなると乗り継ぎ拠点の場所、機能、当初そのような計画もあったが、少し運行しながら検討してみようというところで、対応してきたという記憶がある。場所や機能の確保というと、やはり財政的な出動もあるだろうし、地域での理解も必要となってくると思う。町も総合計画、実施計画的なところでの位置付けというものも必要となってくると思う。ここ数年の検証とあわせて体制についても明確化できるように、着手して欲しいと思う。

会長：いろいろ意見をいただいて、特に乗り継ぎについては、より強化をしていくようなことを是非考えて欲しいというご意見をいただいた。それも踏まえて、次回、原案①とエリアの限定を基に、具体案を事務局で作成してもらうということで、委員の皆様ご承認いただけるか。

－意見なし－

<承認>

会 長：では、このやり方で次回具体策を提示いただきたいと思います。

4 その他

事務局：特になし。

会 長：ひと通り議事は終了した。委員の皆様からご発言いかがか。

－意見なし－

事務局：本日審議いただいた今後の運行システムについては、方向性を固めていただいた。事務局において細かい内容を詰め、次回、引き続き協議をしていきたい。

以上

○出席委員：

中井町自治会連合会長 植木 清八

境地区バス利用対策委員長 及川 幸夫

一般公募委員 廣澤 瀧男

東洋大学国際学部国際地域学科教授 岡村 敏之

神奈川運輸支局輸送担当運輸企画専門官（代理）高橋 渉

神奈川県県土整備局都市部交通企画課（代理）前田 清知

神奈川県県西土木事務所工務部道路維持課（代理）直井 達郎

（一社）神奈川県バス協会常務理事 山崎 利通

神奈川中央交通（株）運輸計画部長 三木 健明

（一社）神奈川県タクシー協会相模支部 露木 幸一

神奈川県交通運輸産業労働組合協議会 小泉 孝行

中井町副町長 加藤 幸一郎

中井町地域防災課長 曾我 裕之

中井町福祉課長 山口 秀俊

中井町まち整備課長 権守 章

中井町社会福祉協議会（代理）星野 武夫

中井の環境を良くする会代表 本多 力

○オブザーバー：

秦野市都市部公共交通推進課（代理）大津 太郎

二宮町政策総務部企画政策課長 西岡 英明

○事務局：

中井町3名